

CASBEE 広島 2016年版

テレビ新広島新築

■使用評価マニュアル CASBEE 広島 2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.7
Q1 室内環境					0.40	-	-		3.3
1 音環境				3.6	0.15	-	-		3.6
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	4.0	-		
1.2 遮音				4.6	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		遮音性能T-2		5.0	0.62	5.0	-		
2 界壁遮音性能		Dr=40		4.0	0.38	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	4.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境				2.5	0.35	-	-		2.5
2.1 室温制御				3.3	0.50	-	-		
1 室温				3.0	0.38	3.0	-		
2 外皮性能				3.0	0.25	3.0	-		
3 ゾーン別制御性		大まかなゾーニングがなされており、冷暖同時でゾーン別制御可能		4.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式				1.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境				3.6	0.25	-	-		3.6
3.1 昼光利用				1.8	0.30	-	-		
1 昼光率				1.0	0.60	3.0	-		
2 方位別開口				-	-	3.0	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策				4.0	0.28	-	-		
1 昼光制御		ブラインド及びルーバーによりグレアを制御		4.0	1.00	4.0	-		
3.3 照度		設計平均照度は750lx		4.0	0.15	4.0	-		
3.4 照明制御		照度センサーにて事務室の設定照度へ自動調光可能		5.0	0.27	3.0	-		
4 空気環境				3.8	0.25	-	-		3.8
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		全ての内装材は基準法を満たしており、F☆☆☆☆を採用		4.0	1.00	4.0	-		
4.2 換気				2.6	0.30	-	-		
1 換気量				3.0	0.33	4.0	-		
2 自然換気性能				1.0	0.33	4.0	-		
3 取り入れ外気への配慮		外気取入口と各所排気口は6m以上離されている		4.0	0.33	5.0	-		
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視		中央監視設備にてCO ₂ 計測監視を行う		5.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		館内全面禁煙としている		5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		4.1
1 機能性				4.1	0.40	-	-		4.1
1.1 機能性・使いやすさ				3.6	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				3.0	0.31	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応		複数の通信事業者回線引き込み等の取組み		4.0	0.31	4.0	-		
3 バリアフリー計画		福祉のまちづくり条例整備基準を満たしている		4.0	0.37	-	-		
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		屋外情報を得られる窓の設置、天井高は2.9m以上		5.0	0.31	3.0	-		
2 リフレッシュスペース		十分なリフレッシュスペースの確保		5.0	0.31	-	-		
3 内装計画		インテリアパースによる内装計画等の取組み		5.0	0.37	-	-		
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		トイレの壁や床は防汚性に配慮している等の取組み		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		維持管理用機能に配慮した計画としている		4.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				4.4	0.30	-	-		4.4
2.1 耐震・免震・制震・制振				5.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		極めてまれに発生する地震動に対し最大応答層間変形角1/150以		5.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		免震装置を設けている		5.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外露出部はステンレス		5.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		上位3種の2種以上にB以上を使用しEは不使用		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				4.6	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		過半数以上にエコマーク性能をもつ給水器具を採用等の取組み		5.0	0.20	-	-		
3 電気設備		非常用発電機を設置等の取組み		5.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスS		5.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		光、メタルケーブルの引き込みにより通信手段を多様化		5.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.7	0.30	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり			4.5	0.30	-	-	
1 階高のゆとり	階高は3.9m以上		5.0	0.56	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.23		4.0	0.44	4.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	4.0	-	
3.3 設備の更新性			3.6	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく更新・修繕が可能		5.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく更新・修繕が可能		5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保	バックアップのためのスペースを確保		4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.1
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	高さ、壁面位置、外装形状色彩等良好な景観形成に配慮		5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	ビロティ部分で雨宿りができ、都市空間のアメニティ向上に貢献		4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	屋上緑化等を行い敷地内温熱環境の向上に配慮		4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m = 0.94		3.4	0.20	-	-	3.4
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEI _m]: 0.85		2.7	0.50	-	-	2.7
4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0
集合住宅以外の評価			4.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	中央監視設備により主要な用途別エネルギー消費の内訳を把握		4.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	運用管理体制が組織化されている		4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			3.0	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.7
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	省水型機器を採用		4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.0	0.60	-	-	4.0
2.1 材料使用量の削減	BCP鋼材の採用等		4.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	タイルカーペット、ビニル床材、天井岩綿吸音板		5.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	再利用できるユニット部材(OAフロア)を使用		5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.20	-	-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.70	-	-	
1 消火剤	ガス消火設備は不活性ガス(N2ガス)を採用		4.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.33	-	-	
3 冷媒			3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮	LCCO2排出率 87%		3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	十分な駐輪スペースを確保している等		5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			-	-	-	-	
2 砂塵の抑制			1.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	1.00	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策チェックリストの過半を満たす		5.0	0.70	-	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	